

未来をカタチにする
MRIグループのコンサルティング&ソリューション

ICTマネジメントサービス (概要版)



2023.6版

DXの推進に向けて、まずは自社の現状の『見える化』を。



- ▶ デジタル化によってビジネスモデルの変革が急速なスピードで起こっており、企業は顧客提供価値の向上や収益モデルの転換、顧客接点の強化等のビジネス戦略を描き、それを早期に実行に移すことが求められています。(デジタルトランスフォーメーション (DX))
- ▶ DXの推進にあたっては、守りから攻めへのIT投資のシフト、IT人材の確保・育成、レガシーシステムの刷新等、様々な取り組みが必要ですが、当社は自社の現状を正しく把握（見える化）することが最初の第一歩だと考えます。

『デジタル化』の波

『DX推進』の波

Strategy

DXに向けて優先的に何から取り組めばよいのだろうか。
当社は同業他社と比べてDXの取り組みが遅れていないだろうか...

Project

プロジェクトマネジメント経験不足、要員不足もあり、プロジェクトをベンダに丸投げにしがち...

Operation

システム運用管理が複雑・多様化...

CIO/CDOの悩み



Asset

ハード、ソフトなど資産は多岐に渡り関連書類も膨大。
精査、評価に手が回らない...
不要な資産は廃棄したい。

Asset

開発保守の影響範囲が分からないので、常に全量テスト。
コストも時間もかかる...

Cost

ICTは現状業務を支えているだけの割にはコストがかかりすぎる...

Risk

セキュリティ・リスク対策はどこまで取り組むべきなのか...

Human Resource

システム部の社員はいつも残業続き。
何故そんなに忙しいのか？



わが社の立ち位置はどこなのか？ 課題解決の出発点は『見える化』

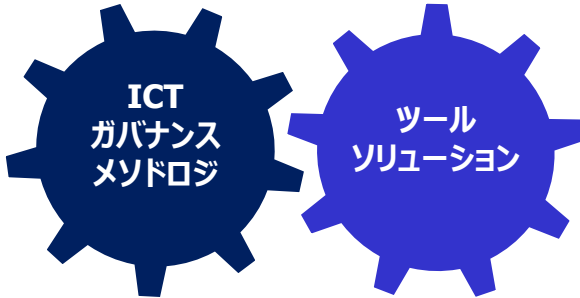


MRIグループの『見える化』による戦略策定～ソリューションの提供

- ▶ 金融機関や官公庁などでのコンサルティング実績で蓄積されたノウハウによる戦略の策定や、先進事例をベースに確立したメソッドに基づき現状を「見える化」します。
- ▶ お客様の状況に応じた最適なツール・ソリューションを組み合わせ提供することで、一気通貫で持続性のあるICTガバナンス強化を図ります。

MRI
三菱総合研究所

DCS
三菱総研DCS株式会社
IT
株式会社 アイ・ティー・ワン



- 三菱総研グループは「システム技術に関する幅広い知見」「業務・ITコンサルティングに関する豊富な実績とノウハウ」「システム構築・運用保守に関する豊富な実績とノウハウ」「プロジェクト管理に関する豊富な実績とノウハウ」を有しています

MRIグループが提供するサービス体系

- ▶ 戦略策定やICTガバナンスの強化に向けた分析・課題抽出から解決までトータルにサポートします
- ▶ サービスは相互に関連していますが、それぞれ独立したサービスとして提供します
- ▶ 課題が明確な領域から着手し、関連する領域の課題も適宜解決するご提案を実施します

戦略策定

戦略を策定し、
ICTマネジメントを強化

1-1.
DX診断・評価

1-2.
DX構想、DX
戦略策定支援

ICTマネジメント

ICTマネジメント
を強化し、適切
なソリューション
を適用

2-1.
ITコスト適正化

2-2.
IT資産管理

2-3.
アプリ資産
可視化

2-4.
データの見える化

2-5.
PJ見える化

2-6.
セキュリティ
脅威見える化

2-7.
運用の見える化

2-8.
IT人材、体制の
見える化

ソリューション

3-1.
システム
マイグレーション

3-2.
データ
マネジメント
ソリューション

3-3.
クラウド基盤
・構成の最適化

3-4.
マルチクラウド
運用の一元化

3-5.
クラウド
セキュリティ
運用監視

3-6.
新技術活用

1-1.DX診断・評価

☞DXの取り組みに向けたIT投資、人材・体制、システム構成等の状況を診断・評価し、DX推進に向けた自社の位置づけ、課題・改善点を明らかにします。

1-2.DX構想、ICT戦略策定支援

☞DX診断・評価の結果やビジネス戦略をもとにDX構想（グランドデザイン）の策定をご支援致します。また、DX構想にもつぎ適切なICT戦略・計画の立案をご支援致します。

2-1.ITコスト適正化

☞ITコスト構造やコストマネジメントプロセスの実態を可視化。コスト適正化余地を把握した上で、適正化施策を立案、実施することで、ムリ・ムダ・ムラの排除を実現します。

2-2.IT資産管理

☞支払、契約、機器構成や保守実績情報など、ITに係る全ての情報を可視化し、それらに関連付けて一元管理することでICTマネジメントを強化します。

2-3.アプリ資産可視化

☞プログラムや定義情報など、開発保守に必要な情報を解析・関連付けし、リポジット化(可視化)。開発作業の効率化と作業品質の向上を図ります。

2-4.データ見える化

☞データアナリティクス体系の可視化、データの有効活用促進を支援します。

2-5.プロジェクト見える化

☞設計書、プログラムなどの成果物をもとにシステム開発プロジェクトの進捗・品質状態が見える化し、実態に即した管理（透明性を持った管理）を実現します。

2-6.セキュリティ脅威の見える化

☞ガバナンス面、IT環境の両面からセキュリティ脅威に対する現状の取り組み状況を可視化し、アセスメントすることで、実効性のある総合的なセキュリティ対策を講じます。

2-7.運用見える化

☞IT運用の業務を可視化・評価し、運用を切り口としたIT投資の適正化や運用部門のサービス品質向上を実現。合わせて運用改善に向けた施策を抽出し、実行計画を策定します。

2-8.IT人材、体制見える化

☞自社のIT人材のスキル、体制を可視化。将来必要となる人材像と現状のギャップを明確にすることで、IT人材強化の方向性や育成プランを策定します。

3-1.システムマイグレーション

☞システム利用部門からの業務高度化ニーズに対応するためのオープンシステムへの移行を、実績あるツールと方法論を用いて短期間かつ低コスト高品質で実現します。

3-2.データマネジメントソリューション

☞今後デジタル化が加速する中で、増加し続けるデータの処理時間や保管コストを改善するための基盤(ストレージ)と新技術(データ仮想化)をご提供します。

3-3.クラウド基盤・構成の最適化

☞システム特性に応じて、パブリッククラウド（FINEQcloud、AWS、Azure、IBM Cloud）、オンプレミスシステムが組み合わせ合わせた、最適化な構成を実現します。

3-4.マルチクラウド運用の一元化

☞パブリッククラウド（AWS、Azure、IBM Cloud）、プライベートクラウド、オンプレミスシステムが混在した環境であっても、ワンストップで一元的な運用をご提供します。

3-5.クラウドセキュリティ運用監視

☞パブリッククラウドの利用が進むにつれ、操作ミスや見落としによる情報漏洩リスクが高まっています。CASBという最新鋭のコンセプトに基づいたツールも用いて、セキュリティを監視します。

3-6.新技術活用

☞AIやRPAなどを活用した働き方改革の推進、大量のデータから最適解を導くデータ解析、AIを活用した規制・制度対応、BC技術活用検討など、新技術活用を幅広く支援。

お問合せ先

MRI 三菱総合研究所

〒100-8141 千代田区永田町2-10-3

営業本部 Tel: 03-6858-3493 Mail: service@mri.co.jp

(担当 企業DX本部 マネジメント戦略グループ)

DCS 三菱総研DCS株式会社

〒140-8506 品川区東品川4-12-2 Tel: 03-3458-8348 Mail: bizlab@dcs.co.jp

株式会社 アイ・ティー・ワン

〒140-0002 品川区東品川4-12-2品川シーサイドウエストタワー3F

Tel: 03-5796-2153 Mail: solution_service@it-one.co.jp